

# 令和5年度 草津市まち・ひと・しごと創生推進懇話会 会議録

## ■日時：

令和6年2月29日（木）10時00分～10時50分

## ■場所：

草津市役所 4階 行政委員会室

## ■出席委員：

小沢委員（座長）、小寺委員、神谷委員、川口委員、佐野委員、清水委員、  
塚口委員（副座長）、福知委員、吉川委員

## ■欠席委員：

松田委員

## ■事務局：

総合政策部 金森部長、山本総括副部長

企画調整課 森下課長、門田課長補佐、三谷係長、山田主査、川端主任  
（説明員）

商工観光労政課 大隅係長

健康福祉政策課 吉川課長補佐

## ■傍聴者：

1名

## 1. 開会

---

### 【金森部長】

本日は、令和5年度草津市まち・ひと・しごと創生推進懇話会の開催にあたりまして、大変お忙しい中、御出席を賜り、誠にありがとうございます。

先月、総務省から発表されました2023年の住民基本台帳に基づく人口移動報告によりますと、日本国内における市区町村間移動者数は、約526万人で、前年に比べ0.9%の減少となり、また、都道府県間移動者数は約254万人と、前年に比べ0.3%の減少となるなど、2022年と比べ、人口移動は縮小傾向であるとの結果が出たところでございます。

滋賀県としましては、転入超過、また本市としましても、県内でトップの転入超過の結果ではありましたが、今後、本市におきましても、現状は人口増加となっておりますものの、2030年にはピークを迎え、その後は、いよいよ人口減少が現実のものになると想定しております。

本市では、このような想定に対して、「第2期草津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、近い将来訪れる人口減少局面で生じる様々な課題による影響を最小限に食い止

めるとともに、さらに魅力的で持続可能なまちであり続けることを目指し、必要な取組を推進しているところです。

こうした中、本日につきましては、令和4年度において、地方創生の取組を推進するため、国からの交付金を活用して、「三方よしの持続可能な健康寿命延伸プロジェクト」や「健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト」などの事業を実施いたしましたので、このあと、事業の効果等について皆様に御検証をお願いいたしたく考えております。

本日は、懇話会の委員の皆様より、市の取組に対する御意見や御助言等を賜りたいと存じますので、どうぞよろしくお願い致します。

## 2. 委員自己紹介、事務局紹介

---

【参考資料1に基づき紹介】

## 3. 議事

---

### (1) 令和4年度 デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）活用事業 について

#### ●事務局

【資料1、参考資料3、4に基づき説明】

#### ●委員

重要業績評価指標（KPI）で未達成であったことに関する分析と、この結果に対する方策などは検討されているのか。

#### ●事務局

県全体としては、「三方よしの持続可能な健康寿命延伸プロジェクト」の未達成の重要業績評価指標（KPI）については、令和3年度に実施した滋賀県政世論調査の結果であったため、長引くコロナ禍が、県民の健康的な生活に対する満足度に影響を及ぼした可能性があるという認識であり、また、市としては、健幸都市くさつの取組を進めることで、健康寿命延伸に向けた機運の醸成を図り、この機運を県全体に波及させていきたいと考えている。

「健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト」の未達成の重要業績評価指標（KPI）については、アプリを活用したイベント参加者数の増加のみにとどまったことが、影響しているものという認識であり、市としては、ビワイチの機運の醸成を図り、この機運を県全体に波及させていき、ビワイチに関連したイベントへの参加者の増加につなげてまいりたいと考えている。

●委員

「三方よしの持続可能な健康寿命延伸プロジェクト」の「主観的健康感の向上に関する取組に参加した県民の数を6万人とする」の実績値について、草津市分が2,574人（延）であり、愛荘町と比べ、少ないように感じるがいかがか。

●事務局

草津市の取組としては、「健幸フェア」や「食と運動プロジェクト」、「くさつランフェスティバル」への参加者数などを計上しており、愛荘町は「健康居場所づくり」、「出前講座」の参加者数を計上している。対象とする事業内容によって、数値に差が生じているのではないかと考えているが、本市としては、各事業を通じて、よりいっそうの参加者数の増加を目指した取組を進めてまいりたいと考えている。

●委員

計測する事業は各市町で違うということか。

●事務局

そのとおりである。交付金を活用した事業で行った実績値を計上している。

●委員

目標値の設定はどのように行ったのか。

●事務局

目標値の設定は、滋賀県の中年層女性と高齢者の合計約60万人の1割である6万人を最終目標として各年に割り振りしたものである。

●委員

「健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト」の未達成の重要業績評価指標（KPI）についての分析を再度確認したい。

●事務局

県が新たに実施した「ビワイチサイクリングマイレージ」を活用したイベントへの参加者数の増加分に限定されていたためかと考えている。

●委員

この分析は「今後の方針」の記載と合致するのか。

●事務局

「今後の方針」については、本市の今後の取組に関する方針を示したもので、「びわこ・

くさつグルメライド」のイベントを継続して実施していくことで、県全体のビワイチに関する機運を醸成していきたいと考えている。

●委員

ビワイチに関連して「道が分離されていないため危険である。」という意見をよく聞くので、こうしたことも「女性・ファミリー向けサイクリング体験イベント」への参加者数に影響しているのかと感じた。

●事務局

令和2年度までは、「健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト」の前身のプロジェクトにおいて、ビワイチの取組を推進してきたところである。ナショナルサイクルルートに指定されるなど、効果を上げてきたが、一方で、観光資源と「ビワイチ」が結びついていないこと、ビワイチ体験者の過半数が関西などの近隣であること、さらに30代以上の男性が多く、年齢や性別の層が偏っていることが課題であった。

この分析から、令和3年度からの「健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト」では、観光や環境に対しての焦点を当てた取組を検討し、重要業績評価指標（KPI）において、「女性・ファミリー向けサイクリング体験イベント参加者の増加人数」を設定したものである。

●委員

予算額と実績額を見ると、草津市は執行率が7割程度となっているが、イベントの参加者数を増加させるために、他に何かできなかったのかと感じるがいかかがか。

●事務局

コロナ禍から少しずつ通常のイベントの実施手法に回帰してきた時期であったことから、一部の事業では、予算通りの実施ができなかったところがあった。しかしながら、必要な予算を計上していることから、今後は効果的な事業の執行に努めてまいりたいと考えている。

●委員

イベントの参加者数については、それぞれカウントの違いはあるかと思うが、多くの参加者を集めるには、参加者が体験できるようなブースを設けることや、イベント参加者に景品を配るなどの工夫を行うとよいと思う。

●事務局

各事業の実施にあたり、イベントの実施の仕方を工夫することは重要であると考えており、事業実施の際には、各所属において内容を検討してまいりたい。

●座長

予算の執行については、効果的な事業実施を行うよう、工夫していくことは必要かと思う。重要業績評価指標（KPI）も改善していくと思われるので、検討をお願いしたい。

それでは「三方よしの持続可能な健康寿命延伸プロジェクト」の事業の評価については、「地方版総合戦略のKPIの達成に有効であった」としてよいか。

→ 異議なく「有効であった」と了承される。

続いて「健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト」の事業の評価については、「地方版総合戦略のKPIの達成に有効であった」としてよいか。

→ 異議なく「有効であった」と了承される。

(2) 令和3年度 地方創生関連交付金事業の効果検証について（地方創生推進交付金）

●事務局

【資料2に基づき説明】

(3) デジタル田園都市国家構想交付金事業について

●事務局

【資料3に基づき説明】

## 4. 閉会

---

【山本総括副部長】

本日は大変お忙しい中、本懇話会に御出席賜りまして、誠にありがとうございました。

皆様より頂戴しました御意見、御助言を踏まえ、継続して地方創生にかかる取り組みを進めてまいりたいと考えております。

引き続き、よろしく御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

以上